

水稲収穫後のほ場管理について

発信日:2022年10月18日

収穫後の水田管理が翌年の高品質米の安定生産につながります。翌年に向けて次の対策を行いましょう。

1 雑草対策

(1) 多年生雑草（オモダカ・クログワイ）【写真1、2】

十分に防除できなかった水田では土中にある塊茎が越冬し、翌年も発生します。寒期(12月～1月)にロータリー耕を行い、塊茎を掘り起こすことで乾燥・凍結により死滅させます。

(2) ナガエツルノゲイトウ[特定外来生物]【写真3、4】

厚木市、海老名市、寒川町の水田で発生が確認されています。他の地域でも水田に発生していないか確認しましょう。

ナガエツルノゲイトウは畦畔沿いに繁殖しやすい多年生雑草です。再生力が旺盛で、茎はちぎれやすく、植物体破片や根から増殖します。用水の流れや機械作業(刈払い・耕うん作業)で拡散するため、耕うんはラウンドアップマックスロードなど水田刈跡に適用のある非選択性除草剤を散布してから行いましょう。



オモダカ【写真1】 クログワイ【写真2】



ナガエツルノゲイトウ【写真3】



ナガエツルノゲイトウの花【写真4】

2 土づくり

(1) 稲わらの処理

水田の稲わらは収穫後、早急にすき込みましょう。すき込む際に石灰窒素[20 kg/10a]を施用すると、稲わらの分解が促進されます。石灰窒素のほか、ようりん[40 kg/10a]やケイカル[120 kg/10a]などの土壌改良剤も稲わらの分解を促進します。〔施用量は目安〕

(2) 堆肥等の施用

化学肥料高騰対策として、堆肥等の有機質肥料の活用を検討しましょう。水田に堆肥を施用する場合の基準は下表のとおりです。施用時期は秋から冬にかけて行い、土中で分解を促進させます。ただし、湿田では水稲の根に障害を及ぼすガスが発生する恐れがあるため、堆肥の投入を行わないようにしましょう。

表 堆肥の基準施用量 (t/10a)

牛ふん堆肥	豚・鶏ふん堆肥	稲わら堆肥
0.5~1	0.5	1

注 乾燥豚ふん及び乾燥鶏ふんは肥料成分が高く、水稲の生育が不安定になりやすいので使用を避ける

※ 神奈川県作物別施肥基準より

3 イネ縞葉枯病対策【写真5】

イネ縞葉枯病はヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病です。感染したひこばえは、翌年の伝染源になります。そのため収穫後、早急に耕うんしましょう。また、ヒメトビウンカの越冬場所となる畦畔雑草の除草を行い、個体数を減らしましょう。

4 スクミリンゴガイ対策【写真6、7】

スクミリンゴガイの発生地域が拡大しています。発生している地域では次の対策を行いましょう。

- ・ 貝や卵塊を発見したら、捕殺しましょう。捕殺の際は素手で触らないように気を付けましょう。
- ・ 寒期(12月～1月)にロータリー耕を行い、貝を掘り起こして寒気にさらすとともに破碎します。作業速度を遅くしロータリーの回転数を高く、浅めに耕うんすると、効果が高まります。発生密度が高い水田では複数回行いましょう。越冬個体が多い水口、水尻、水が溜まりやすい畦畔沿いは、ロータリーが届かないので、鍬等を使い、貝を破碎しましょう。
- ・ 越冬場所となる用排水路や榊(ます)の泥上げを行い、越冬している貝を破碎し、越冬密度を低下させましょう。泥上げは地域全体で行うと効果が高いです。

5 獣害対策

ひこばえはイノシシやシカなどのエサなります。獣害が発生しやすい地域では、収穫後早急に耕うんしましょう。



イネ縞葉枯病に感染したひこばえ【写真5】



スクミリンゴガイ【写真6】



スクミリンゴガイの卵塊【写真7】

問合せ先

農業技術センター

普及指導部作物加工課

平塚市上吉沢1617

TEL:0463-58-0333 内線381～384

FAX:0463-58-4254